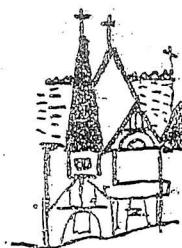


# 心理学講座より

「心理学講座」第12回配本附録

東京都神田局區内神保町2の24 電車通り 株式會社 中山書店



## 心理学のそだつ風土

相 良 守 次

前回配本になつたこの「講座より」に波多野完治氏が「心理学はおとろえぬか」という文章をかいりられるが、ぼくは大いに傾聴した。そのなかに波多野君は、明治末年から大正のはじめにかけて人文関係の学者にひらく関心をもたれた心理学が、波多野君やぼくらが学校を卒業したころになると、すつかり旗色がわるくなつて、いたことについての原因を指摘しているのであるが、その原因はほぼ三つになるとしている。

その一つは学説の問題で、かつて精神科学や人文科学に志した人たちに関心をもたれたころの心理学は、それらの学問の基礎学とみられ、じぶんたちの勉強のために必要な学問とみなされていたのが、心理学の傾向や学説がかわり、それが精神科学者たちの関心をひかないようなものになつたことであるといふ。たしかにぼくらの大学卒業のころは、他の人文科学の専門家で心理学に興味をもつてゐる人はすくなかつた。もつとも、これは一つには、それぞれ専門の学問が分化する傾向にあって、あまり隣接の学問に注意をはらう氣風がなくなつて、いたことにもよるとおもわれる。したがつて、心理学の傾向が他の隣接科学の人々の関心をひきにくくなつたことが、心理学の退歩あるいは墮落を意味するかどうかと、ということになると、いろいろ異論もあるだろう。

波多野君が、心理学の人気がなくなつた第二の原因としてあげているのは、そのころの心理学が、実用問題を手がけることを怠慢におかな氣風があつたということであるが、これも、たしかにそのとおりで、応用心理学を専門にするのは、小部分の同學者にかぎられていた。

第三の理由には、日本の社会が、個人を大事にしないということに関連があるようだ、ということを

日本応用心理学会 大会 研究発表 報告

ご希望の方は、価五〇〇円(半額)をそえ  
中山書店にお申込みください。

日本応用心理学論文集

あげて いる。つまり日本の社会には、個人の心理などを尊重しない風潮があるといふわけだ。それが皇道を宣揚する時代になつてきよくな姿をとつたということで、これもうなづかることであろう。

そして最後に波多野君は、以上の三つの理由のなかで、第一と第二とはさういに心理学の進歩の結果、克服されたが、第三の方は、こんご社会のうごきによつては、ゆだんがならないとむんでいる。

ある学問が、その国で繁栄するかどうか、またさらにこまかくいえば、その学問のどういう傾向の学説や部門がさかんになるかということには、その専門の学者の性向や能力、努力のいかんにかかっていることはもちろんであるが、その国、社会一般のクライメートによるることもいなまれないことだ。そしてこの後者、その国の社会のもつ气候、風土というものが学問の生長にたしかに大きな影響をもつてゐることは、学問に従事するものが、直接にその皮膚で感じられることがある。ときどきの、風の吹きまわしによつても学問はいためつけられたり、もてはやされたりする。戦争氣がまえをとりはじめたころには、基礎的心理学は冷飯をくつたが、海軍などでは、外国のまねでテストや訓練法のために、心理学を大いに動員したものであつた。

こういう時局の変化の影響といふものよりも、もつと永続的なものとして、社会的風土というものがあり、それがある学問の生育伸長に適しているばあいとそうでないばあいがあるわけだが、この点でわが国はどうなものだらうか。バラの採培にあまり酸性のつよい土地はむかないよう、正直にいってこれまでの日本の風土は、心理学がそだつにはあまり適したものではないようを感じられるのはひが目であろうか。

その例は、いろいろあげられるようにおもうが、たとえば、泰平の時代に、ドイツ留学から帰つた友人が、ドイツでは会社の重役でも心理学者を傭えば、その意見をよく尊重すると語つたことを記憶しているし、近ごろのアメリカでは、臨床心理学にたいする社会一般の期待は相当なものであるようだが、この国ではなかなかそのようには、この学問を世間がうけいれられるときがこようとは期待されない感じがする。近ごろ表面的には、世間にもてはやされているようみても、何かこの学問に抵抗する底流があるよう感することが往々にある。最近の進進論戦などでも、ちょっとその氣味があつたようだ。それが波多野君のいう、個人を大事にしない思想からきているのかそれとも、精神を科学的にあつかうことを行つうらう非合理主義なのか、今の心理学にた

いする不信用なのか、はつきりしない。しかし、それにもかかわらず、この学問が、内側からみても、近來ようやくこの國の土地に根をおろしてきたことを感ずるのである。それは研究のしかたが、本格的になってきたことにあらわれてゐる。その一端は、先輩や仲間の業績にたえず注意し、それを積みあげ發展させるような研究をするのが普通なことになつてきたということにみられる。こんなことは当然だといふかもしれないが、わたくしたちの学生時代はもとより、その後の相当のながいあいだ、目をむけるのはいつも外国の文献であつて、それを追いかけていたものだ。

昨年訪日したドイツの化学の泰斗レッペ博士は、ドイツと日本の化学界の相違をきかれ、それは伝統の差だといふあじわいのふかい答をしたそうだが、学問がその国に根づくには、相当の年月を要するし、まして伝統をもつては、さらにながい年月を必要とする。日本の心理学は、ようやく根づいてシニートをのばしはじめたところだが、しかし、これから伝統をきづくようになれば、ちつとは酸性のつよすぎる土壤ではあっても、また冷い風がすこしは吹くようなることがあつても、そう簡単に立ち枯れすることはないと期待してゐる。

テレヴィイが普及してしばらくのあいだ、アメリカでは、映画館が急にさびれてしまい、一時は大きな問題になった。けれどもいまではまた映画館に客足がついていると、いう。理屈はきわめて簡単であって、家庭にいながら映画がみられれば、わざわざ館にゆく必要はないし、また、テレヴィイの珍らしいころは、その前に坐りつきでいるために、映画館にゆく暇がなくなってしまふからだ。

だが、テレヴィイは、家庭の中にあるもので、もしもそこに、猛烈な恋愛映画でもうつったとしたら、親は子供に気がねで、ろくろくみてもいられない。自然、テレヴィイは、家庭と学校のための番組を提供するようになるので、またぞろ映画館にでかけるわけだ。

どこの誰ともわからぬ者と肩をならべて映画を見る——これが魅力なのである。なるべく大勢がいい。少じふんぐするぐらいが調子がいい。わたしは、映画会社につとめていたころ、ときどき仕事のつごで、たった一人で映画を見ることがあつたが、これほどばからしいものはない。長尺の喜劇物などになるといよいよもつてばかりしい。というより、われわれしもじの者としては、おれ一人のためにこんな

ものをかけてくれて映写技師が氣の毒だと、か、時間外の手当はあるんだろうなどと、いながり映画がみられれば、わざわざ館にゆく必要はないし、また、テレヴィイの珍らしいころは、その前に坐りつきでいるために、映画館にゆく暇がなくなってしまふからだ。

エノケンさんが、こちらをむいて、お猿のような顔で笑わせようとすると、もうたくさんと手でふせぎたくなるほどだ。一对になると、たとえスクリーンでもエノケンの方が強くなる。

それが、大勢でみていると楽しい。はた

身につまされると、というのは、封建的なものが、日本のばあい多いので、封建的くさんと手でふせぎたくなるほどだ。一对になると、たとえスクリーンでもエノケンの方は強くなる。

エノケンさんは、いかに売りこむ。ほんとは、どちらも、大っぴらにやると、いいのだ。もう二十何年も前のトキの「ソレ」と「ソレ」のときには、ひとりのおじさん、ワントン泣きをしたのを見たことがある。はじめ、わたしは、どうかしたのかと思ったが、そのうちこっちも泣けてきた。映画と、この観客の泣きっぷりに泣かされた。

しかし日本人は一般に笑いも涙もかくしたがる。外人が喜劇を見て、腹を抱えて笑うような開放性がない。またつまらなくてはがまんしている。外国ではつまらなかつたり、自分たちの意見に反対のものだと、足をならし口笛をふいてやめさせてしまうので、「何巻しかもたない」というそうだ。どちらうで映画をかえるのである。日本では「何日しかもたない」という。三田田くらいには人の瞳も広まって、つまりからゆくまいということになる。

## 集団効果

望月衛

これをがまんせずに、つまらないものはじまらないと騒げば、日本の映画はもつともへなると思う。

映画では、相手がスクリーンだから、何といつても反応はない。そのかわり、それは、じかに他の観客に伝わり、館主側の方にひびいてゆく。映画館での繰次や、そうした反応はこういうどぎつい効果をもつてゐる。芝居の方だと、なにかどなつても、役者がそれを受ける。いつたん、そこに吸収されてしまうから、他の客への効果が少い。芝居小屋でのざわめきが、そんなに気にならないのはそのせいだろう。

こういう集団の性質による効果の差が日本では一般に理解されていない。議員の候補者が、政見放送をするときなどでわかる相手は、食膳の前の数人の家族なのに、まるで議会の壇上で演説しているみたいな方がいる。昔は「偉い人」だけが、演説口調をするものと引き合っていたから、わからなくて誰か演説しているかがわからればよかつたが、今はそうはない。

マイクを使って、大ぜいの人にくかせるのが、実は、一番むずかしい技術であろう。小さい声が大きくなりこえたら、ニーモアがニーモアでなくなる。落語家が、大きな場所で話せないのもその辺に事情がある。

(東洋大學教授)

人と  
し間  
て科  
の学

文教  
學大  
博士

心理學

小保內虎夫著

全訂新版

〔全訂新版〕

卷四

生理學 植物

医  
学  
大  
博  
士  
授

同水著

【全蜀新版】

A5判上製箱入五二〇頁  
挿図二八〇葉 原色三葉  
定価七〇〇円 〒50円

(内容見本送呈)	工	種	基	礦	農	業	の	第一卷
	工	種	基	礦	農	業	の	第二卷
	工	種	基	礦	農	業	の	第三卷
	工	種	基	礦	農	業	の	第四卷
	工	種	基	礦	農	業	の	第五卷
A 5 判極上製袖付箱入 原色版共挿図四〇〇葉 各巻共予定価格七〇〇円	総索引	技術	畜・加	芸・病虫害	作物育	農業の基	礦業の基	第一卷

(內容見本送呈)

本大系は、農業全般を体系的に構成するものであります。農業の各分野を網羅的に扱うことは、農業の実務的意義を十分に發揮するためには不可欠です。したがって、各分野の特長を理解するためには、各分野の専門知識を学ぶことが重要です。したがって、各分野の専門知識を学ぶことが重要です。

農業全般に關する専門書の少ないおりかへり。本大教書授刊野口博士は、斯界關係者をもつて編纂された。讀者に本網の羅しを爲す。著者を注目され、其の圖書館に生徒の一部が貯められ、その中で最も多くは農業大學生のものである。また、農業部の教員は、彼らの職務のため、多くこの本を數えられた。本大教書授刊野口博士は、斯界關係者をもつて編纂された。讀者に本網の羅しを爲す。著者を注目され、其の圖書館に生徒の一部が貯められ、その中で最も多くは農業大學生のものである。また、農業部の教員は、彼らの職務のため、多くこの本を數えられた。

東大教授  
農場長  
博士  
野口彌吉  
編責任

農業全般に關する専門書  
技術教育課長 文部省大學藝術局

農業圖說大系

(全五卷)

# の理論的基盤について

## 導職業指導

藤本喜八

探がし求めたが、一つも

得るところがなかった。

そこで彼の職業指導は、職業情報、自己分析、面接の三つの方法——しかし

もいずれも常識的な程度で——に立脚するに過ぎなかつた。新しい指導は

心理学的諸検査が発達するまで待たなければならなかつた。心理学的諸検査が発達してくると、今度は、これ

のみが職業指導の唯一の方法であるかのように見解が横行するにいたつた。このようない見解が勢力を占めたとき、それらの諸検査がなお十分に負託に応え得なければ、かえつて、不信と反感をうけるにいたるのは理の当然である。社会学的見地に立つて職業指導を推進すべしという論が、根強いのは、このためである。

創始者バーソンズから起算すると、既に五十年の歳月を経、幾多の先輩がこの分野に心血を注ぎながら、今日なおこの状態にかつたが、これを学校内の正規の活動に織り込まねばならなくなつたとき、教育体系におけるその位置づけが必要となつた。ジョンズが、ミニマム・エッセンシャルズをサブジェクトとして教授することと、個人的必要に応える指導とを総合して教育と

職業指導の理論的基盤を構成し、職業指導のささえとなつてゐる考え方には、実に多くのものがある。考え方の微細な違いまで穿さくすると、その数は、職業指導に従事する者の数と同数に達するかも知れない。

しかしこれらの考え方を大まかにとらえると、いくつかの類型を認めることができるだろう。たとえば、心理学的なそれ、社会学的なそれ、教育学的なそれ、或は経営学的なそれ、などをあげることができよう。

元来職業指導は、児童保護という見地から社会的必要に基いてはじまつたのである。ベータンの説くところによると、職業指導の創始者バーソンズは、當時アメリカ全国にわたつて、諸大学の心理学研究室を歴訪して、役に立つ心理学的検査法を

近來、産業社会学の発達に伴い、經營の人間関係を改善し維持するという見地から職業指導を論ずるものもある。そこでは、いわばインテレクチュアルなものよりもエモーショナルなものに力点が置かれている。産業の発達に伴つて、技能的労働を要求することが減じた分野において、特に然りである。

このようにみてみると、職業指導は、諸学の発達に伴つて、そこからいろいろの方法や技術を学びとり、その背景となり基礎となつてゐる理論を学びとつてきたが、それはまだ、ウント・ズンメンの域を脱していい。グレンツ・ゲビートの通弊として、方法・技術が先行していく、しかもそれを離は断片的な借りものの寄せ集めにどどまつていて、理論的なまとまりに達していない。

創始者バーソンズから起算すると、既に五十年の歳月を経、幾多の先輩がこの分野に心血を注ぎながら、今日なおこの状態にとどまることは、慨嘆すべきことである。同慶の士と共に、吾々の時代にこそ、職業指導のプロバーの理論的基盤を確立したいものである。昨夏同志と相はかつて、職業指導学会を設立したのも、こうした願いからほかない。

(立教大学教授)

## 読者ページ

がすこし簡略の感があり、できるならば是非ふやしてください。

大分県大分市上野町北三 教師 秋月辰雄

現在まで生物学大系・生理学講座・心理学講座と購入して読んでいますが、いずれもよくできており、特に生物学大系・心理学講座は教育上大変役立っています。ただ分冊になっているものに、第何巻の何分冊と番号でもつけて、索引を作つて引けるようになつておれば、非常に便利と思います。

青森県五所川原町中平井町 教師 成田伝蔵

横山先生の情意実験法が一年早く出版されていたら、私の卒業論文も方向が著しくかえられていたことと思う。卒論作成のため折角の講座が、大半しばらくのあいだソンドクのやむなきにあつたことは、慚愧にたえない次第。

北海道大学文学部心理学科学生 小淵忠男

前回の本紙上でお知らせ申し上げましたごとく、当初全十二巻を十二回の配本の計画で発足しました本講座も、その後、進行途上におきまして、各方面の皆様方から寄せられましたご希望、ご感想に基き、新たな項目を加えましたことと、かつては、ご執筆諸先生方の原稿枚数の増加等により、最後の「詳細な総索引」とともに、三回分の配本回数の増加となり、全十五回配本として今春五月完成の方針が確立いたしました。

大学の教養課程では、せまく浅い講義しかきげずにすぐ専門に進みましたので、現在かえって研究が進まない状態におりましたところ、本講座によって極楽への糸を見出した感じで、今後の研究に希望と自信をもちえて喜んでおります。広い分野にわたっていることは大きいのですが、内容

## 心理学講座

### 第十三回内容

了解心理学

早大教授

上村 福幸

フランス学派

東京工大教授

医学博士

宮城 音彌

脳の形態と機能

東京工大教授

医学博士

内村 祐之

児童の心理

東北大教授

医学博士

白木 博次

現象学

東北大教授

医学博士

杉本 良一

健

慈恵大教授

電気試験所

小熊虎之助

心靈

東北大教授

明治大教授

医学博士

後藤 以紀

マス・コミュニケイション

東北大教授

電気試験所

立教大講師

科学発達技術論

東北大講師

科学論理學會員

市場調査(2)

東京商工指導所長

高木 貫一

応用視知覚論

東京大教授

高木 貫一

野村 暢清

篠原 雄

金子 有造

立教大講師

科学論理學會員